

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年全員参加の施設研修として理念の共有している。地域に根差した事業所づくりを会議内で議題として様々な角度から検討している。	法人の基本理念「愛と希望」をもとに基本運営方針を定め、理念に関する職員研修を実施するとともに、職員とともに年度のユニット目標を検討し振り返りの機会を設けるなど、理念を実践できるように努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の大学との繋がりがあり、自立支援センターの職業訓練の場として提供している。地域貢献としては敬和大で包括支援センターの職員と共同し認知症の方への理解を深めるため授業をさせていただいている。	今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛している部分もありますが、中学生の体験学習や隣接する敬和大学のゼミ生を受け入れたり、地域の傾聴ボランティアの方にも来て頂くなどして地域との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	敬和学園大学学生を達の学びの場を提供し、のぞみの里からは職員を認知症の講師として授業へ派遣している。市が主催する認知症カフェへや、ボランティアフェスティバルへ参加している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、ご家族代表、包括支援センターの職員、敬和大教授の方々と情報交換や貴重なご意見を伺い施設運営の貴重な意見として反映させていただいている。	2ヶ月に1度、地域包括支援センター職員、敬和学園大学教授、民生委員、ご家族代表等にご利用者の状況報告、ホームでの活動報告などを行い、意見を頂き、ホームの運営に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新発田市の高齢福祉課と協力し日々の事業運営にあたっている。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にて状況を報告しているほか、市の担当職員にも必要に応じて運営の相談に乗ってもらうなど、連携をとりながら運営を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針ユニット入口付近に設置。をユニット会議や職員会議内で身体拘束の有無を定期的チェックしている。また研修を実施し、身体拘束について理解を深めている。	玄関の施錠も夜間帯のみとするなど、身体拘束を行わない方針で運営しており、毎月の職員会議にて身体拘束廃止委員会での検討や職員の理解を深める為の研修も行っています。	研修報告書には時間・場所も記載し、全ての職員の研修受講状況を分かりやすくされることを期待します。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止への指針を設置。委員会を立ち上げ職員会議内、各ユニット会議内においてケアの振り返りを行っている。また年一回研修を実施し虐待防止への理解を深めている。	職員会議でも職員の言葉遣いや態度に関して周知徹底を行い、職員の理解を深める為の研修も行い、虐待の防止についての職員の理解を深めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の研修を実施しているうえに、更にケアマネなどそこに関わる方は日々学びを深められる様にしている。成年後見制度の利用はこれから増加する為、外部研修等にも進んで参加していくように心がけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語をなるべく使わずに、ご家族様に納得いくまで説明し同意を得ている。締結後でも疑問があればすぐに対処できるよう、担当者を増やし対応させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナの関係で家族会の開催は出来ないが、面会や電話で家族の意見を聞き運営推進会議。職員会議などで話し合い反映している。	日常の面会時や電話でのご家族とのやりとりにて要望の確認をしているほか、ご家族代表には運営推進会議にてご意見をいただいています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニット会議で意見を上げ職員からの意見が上がったり、体調面、心理面、家庭環境に不安が場合には月一回理事長、常務理事、各施設長が参加する法人会議の場で報告している。	日常のやりとりや毎月の職員会議で職員の意見や要望の確認を行っています。また、統括リーダーは職員と個別面談も行なうなど、職員の意見を確認できるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や目標シートの記入を実施しながら、各職員と面談などを行い、個々の能力を活かせる業務をお願いする様に対応している。個々の家庭環境への配慮も可能な限り反映できる様に調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	状況に合わせた研修を受け、法人内外の研修への参加や職員が考えて動けるような取り組みを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて、他の法人の方との交流を行い情報交換を行っている。相互の訪問活動はないが自分の法人だけでなく、他の法人のやり方等を聞き参考に出来る部分は参考にさせて頂いている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は不安がある為、ご本人に寄り添い、説明や確認、同意を行いながら信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネを中心にご家族に必要事項の説明を丁寧に行い、できる限り連絡を密にとりながら連携出来るような関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・ケアマネ又は入居担当者が状況の把握に努め、適切なタイミングで対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の視点に立ち、個性や生活歴を尊重しながら出来る事は本人にさせていただき、出来ない部分のみ支える事で信頼関係を得られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りでご家族にご本人の状況をお伝えし、ご本人様にもご家族の状況をお伝えし時にはご家族の協力を得ている。	事業所広報を作成しご家族に送付したり、毎月日頃の活動の様子や状態をまとめた個別のお手紙をお送りするなど、ご家族とも情報が共有できるよう努めています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦のなかでも可能な限り、本人の希望に沿い感染症対策を講じたうえでの外出や対面での面会を実施しながら途切れないように支援している。	定期的に面会に来て頂いたり、行きつけの美容室を利用される方やホームでも新聞や牛乳を定期購入される方もいるなど、これまでの関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝利用者様同士で挨拶をしたり、食席やかかり方等にも配慮をして良好な関係を作れる様に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族からご連絡を頂いたり、協力できることはさせて頂くように心掛けている。退所後も良好な関係を構築できている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の思いや意向を傾聴し、コロナ渦でも可能な限り希望に添えるように対応している。困難な場合でも打開策を検討したり、その旨を説明しながら対応している。	日々のご利用者とのやりとりにて要望を確認し、その都度対応するように心がけています。また、介護計画作成の際にはご利用者、ご家族の意向を確認しています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報と入居してからの情報を把握し、生活の改善や問題点について毎月の会議で共有と検討をして協議している。	入居の際にご利用者、ご家族等から確認した情報をもとに、これまでの生活の情報をフェイスシートにまとめています。また、定期的にフェイスシートの見直しも行き、日々の生活の中で得られた情報も追加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に観察を行い、多少の変化でも職員が情報共有を行い各入居者様が持つ力や、一日の過ごし方については把握するように務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやユニット会議を通じて状態の把握と問題点の共有、解決方法の検討をケアプランに反映しご家族から了解を得て実施している。	ユニット会議にてご利用者の状態を確認し、モニタリングも毎月実施しています。また、サービス担当者会議も行き、介護職員とともに介護計画の見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活と違う動きをされた際は、記録に残し、申し送りを行いながら情報共有が出来ている。それを基に毎月のユニット会議で計画作成、ケアマネと情報共有をして見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の希望にそって動くための業務調整を行っている。可能な限りニーズに対応できるように各所との連絡や調整をして適切なサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬和大との交流、認知症カフェ、各種ボランティアなどを通じて、地域資源の発見とどのように連携を行うかを日々考えている。立地条件から出来る限り施設から出向くように意識しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が受診される方もいらっしゃる為、そこから得た情報をもとに様子観察を行うように心掛けている。	医師、訪問看護、薬局と医療連携体制を構築し、ご利用者・ご家族の希望に合わせた医療機関にて受診しています。受診支援はご家族にもお願いしており、必要に応じてホームからも医師へ情報提供を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用しながら、情報共有を行い受診が必要な方については受診対応を進めるなど主治医とも情報共有をして連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネジャーを中心に病院の相談員との連絡を密にとりながら、ご家族の意向やご本人の状態の把握に努めている。ケアマネの繋がりなどを深めいざという時に対応できるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来る限り長くホームにいた頂けるよう、ご家族へのケアの説明を行うことやご本人から意向が聞けない場合は、ご家族の希望などを聞き、主治医とも相談しながら適切なケアが受けられる場所を提供している。	契約時にホームとしての重度化対応や終末期ケアの対応に関する指針を作成し、ご家族に説明・同意が得られています。ご利用者の状態に合わせてご家族との検討の機会も持つなど、ホームで出来る支援は行っていきたいと考えています。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の実施はしている。可能な限り消防署開催の救命救急訓練に順番に参加できる様にしている。	急変時や事故時の対応をマニュアル化して綴じてあり、事業所でも救命に関する研修の機会を設けるなど、職員が適切な初期対応ができるよう支援しています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年の防災訓練を行いながら、敬和学園大学とも連携を行いながら、協力出来るような体制を作れるように心掛けている。	年2回、ホームにて水害や夜間の火災を想定した避難訓練を実施しています。また、非常用の食品や水も確保しており、災害時に対応できるように、緊急連絡網を使用した訓練もしています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時の見守りを行う位置や出来る限りご本人が傷つかないような声掛けを心掛けている。動きについても、出来る限り本人が一人で動く事を尊重しながら必要時は声掛けをしている。	職員会議でも職員の言葉遣いや態度に関して周知徹底を行い、ご利用者の尊厳を大切にしたいケアに努めています。また、契約時にはご利用者の写真の広報の掲載についても同意が得られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り問いかけるようにしており、本人の意思をさけるような声掛けをしている。ご本人の希望を定期的に聞きながらしたいことができるような取り組みをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の生活のペースにあった日々を過ごして頂けている。食べたいものなど希望があれば購入して食べていただくなど職員が希望に沿って動けるよう業務調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ本人の着たい服が切れる様に心掛けてはいるが、お伝えしても分からない場合はこちらで決めさせていただいている。散髪の希望に合わせての外出などにも取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ノロウイルス等の感染症リスクにも考慮している事と、介護度が上がってきており困難な場合が多く職員が準備などしている。ご本人の好みをききメニューの変更などは行っている。	ご利用者の状態に応じて食事の準備や片付けなども手伝ってもらっています。ホームには畑もあり、ご利用者にも野菜の収穫を手伝ってもらっています。季節のメニューを提供したり、レストランへ外食にも出かけるなどし、ご利用者に食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、業者から材料が提供されてくるためそれにそって作成している。食事量などもご本人の状態や希望に合わせて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアは出来ていないが、入床前には必ず口腔ケアを実施している。ただ認知機能低下で拒否などがある場合は手段を変えたりして工夫して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の状態に合わせ出来るだけ布パンツを混ざ背る様に努力している。立位保持が困難なケースなども増えてきているが、本人の排泄状況を把握し、パット交換などのタイミングは配慮している。	ホームに入居されて最初の2週間は排泄チェックを行いご利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせたトイレ誘導や声かけを行い、気持ちよく排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動等出来る方はしていただいている。水分摂取を促し、できるだけ便秘にならないよう内服調整等も主治医や訪問看護と協力して行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日に入りたくない等あれば無理に入れる事はせず別日に変更している。女性対応がいい方などはその希望に添えるような対応を心掛けている。	入浴はご利用者の希望に応じて同性介助で支援したり、入浴を嫌がるご利用者にも声掛けやタイミングを工夫して、ご利用者に入浴を楽しんで頂けるように努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調に合わせ休んでいただいている。夜間帯もゆっくり休んでいただける様に排泄介助の回数を減らしたりと日中に眠気が来ないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	下剤などの作用は共有している。内服薬の変化があった際は申し送りを行い、副作用などでないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お話をする時間を設けたり、洗濯物干しやたたみ物を出来る方をお願いしている。ご本人が食べたいものや欲しい物を聞き、職員が購入して食べたいものが食べれるように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦の中多くはないが外出支援は出来ている。ご家族とお墓参りに行かれる方がいたり出来る限りは対応しているが、立地条件もあり中々地域の方と協力しての外出などには取り組めていない。	ご利用者にホームでの生活をより楽しんでもらえるよう、スーパーへの買い物やレストランへの外出に出かけたり、お花見や瓢湖見学等への外出支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設で実施しているが、財布がないと不安になる方などは少ない金額を持って頂いている。お金を使うことについては、本人の希望に沿ったものを購入させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話していただいている。手紙のやり取りも入居者様から希望があれば行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には入居者様に合わせた飾り付けをおこなったりしている。食事のプレートを作りその時期に合わせたシート等を使い、季節感を味わえるようにしている。	フロアにはソファやピアノが置かれており、ご利用者同士がテレビを見ながらゆったりと過ごせるようにされています。共有スペースからは、ホームの中庭もよく見え、畑の野菜や季節の草花を見渡すことができます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席の配慮はしている。仲のいい方は同席にしたり、一人でテレビを見たい方はテレビが見える席にいてもらったりと自由に過ごせる様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はご本人が使っていたものを出来るだけ使っていただくように促している。布団で生活されていた方は布団を利用したりと工夫している。	ご利用者・ご家族とも相談し、仏壇やタンス等の家具やご家族の写真など、使い慣れた物、好みの物を持参し、居心地良く過ごせるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はご本人にやって頂きながら支援している。動きを制限しない分のリスクはあるが、ご家族にその旨を説明して了解を得て自由に生活できる様にしている。		

**V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				